

9

## 放牧で生産調整と遊休農地解消の取り組み（一挙両得）

須賀川農業普及所  
主査 柳沼 浩



須賀川農業普及所の管内は、東はいわき市に隣接する古殿町から西は下郷町に隣接する天栄村まで、1市4町3村となっています。当管内では、生産調整の円滑な推進と粗飼料自給率の向上さらには未利用資源の活用とあわせた遊休農地の解消に向け、「放牧」の推進を関係機関・団体が一丸となって積極的に進めています。

当管内では、平成19年度の実績として6市町村18名2組織の合計20ヵ所で約22haの面積で放牧が取り組まれています。いずれにおいても、電気牧柵を活用したもので、生産調整の実施と遊休農地の解消に加え、低コスト化と省力化が同時に図られることから、放牧取り組み者からは非常に好評で「もっと普及させるべきだ」との声が出ています。

特に、須賀川市と古殿町では市町単独事業に取り組み、石川町では「稔りの農地活用支援事業」へ町単独で上乗せ助成事業を行っており、畜産農家の更なる負担軽減を図り、放牧の積極的な推進を図っています。

今後は、各市町村・JA・畜産農協・酪農協・共済組合等の関係機関団体との連携をより強化し、集落営農の推進とあわせた積極的な推進を図っていきたいと考えています。



遊休化した水田（左）が放牧して10日後



放牧後（石川町南山形地区）

### JAグループ福島県域営農センター・福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

（福島市飯坂町平野字三枚長1-1 Tel 024-554-3072 Fax 024-554-6022）

[http://www.fs-suishin.jp/04\\_doc/04\\_vision.html](http://www.fs-suishin.jp/04_doc/04_vision.html)

## 常葉放牧利用組合の放牧の取り組み

県中農林事務所  
田村農業普及所  
技師 湯坐 久



常葉放牧利用組合は、田村市常葉町内の4戸の肉用牛繁殖農家で構成されています。

各組合員が放牧へ取組んだ理由は以下のとおりです。

- 耕作者の高齢化、転作の遅れや葉たばこの廃作に伴い遊休農地化している水田や畑を活用することにより、景観を保全したい。
- 放牧することにより、牛へのエサやり、牛舎からの糞出しや採草等の作業が省力化される。
- 牛を適度に運動させることにより、発情発見が簡単になり、受胎率の向上を図ることができます。
- 飼料価格が高騰する中で、遊休農地に自生している雑草や野草などの資源を、牛の飼料として利用できるのでコストを削減できる。

こうした現状を踏まえ、平成19年9月から1. 4ha (遊休水田0. 7ha、葉たばこ耕作跡地等0. 7ha) で放牧を開始しました。放牧するに当って、必要な電気牧柵等の資材は、田村市、田村畜産農業協同組合等の協力を得ながら、県の「稔りの農地活用支援事業」を活用することができました。

放牧開始後、牛によっては新しい環境に慣れるまで時間がかかりましたが、クズやススキ等の雑草も喜んで食べ、それまで荒れていた農地が1ヶ月ほどきれいになりました。

平成19年の放牧は短期間でしたが、各組合員が飼養管理の省力化を実感することができ、来期への取り組み意欲も強くなりました。今後は、放牧面積の拡大と、農繁期に省力化できることから飼養頭数も増やしていきたいと考えています。

放牧中は地域の農家の方も見学に来たり、新たに集落営農の転作田（牧草）の放牧利用も検討されるなど、放牧の取り組みが広がりつつあります。



氏名	国馬 ヨウ子
所在地	福島県田村市
経営の概要	
○飼養状況	
成牛 育成牛 子牛 繁殖牛計 肥育牛 14頭 7頭 9頭 14頭 頭	
○経営面積 田 (0.7ha) 畑 (1.0ha) 牧草地 (0.5ha)	
○労働力 家族 2人、臨時雇用 人、常時雇用 人	
経営への関与 牛の管理では、飼養・衛生管理、発情発見（種付け）・出産など繁殖に関する作業。特に、飼料の収穫、給餌に関する作業を受け持つ。	
地域活動 福島県和牛女性ネットワーク会長及び福島県女性連絡協議会の会員として、和牛生産に関する組織で活動している。 また、田村畜産農業協同組合婦人部会長として、畜産協への婦人の参画、畜産経営に関する研修会の企画などに参加し、地域振興に協力している。一方、全国畜産横断いきいきネットワークの役員として、地域振興のため参画している。	

